

よいち町

2025.6  
No.215

議

会



だ

よ

い

交通安全青空教室（黒川小学校）



登下校や日常の安全のため横断歩道の渡り方、地域の交通安全について学びました。

## 第1回定例会・第3回臨時会の審議結果

○議員派遣型の懇談会”どこでも余市町議会”を開催しました P 2

○主な審議結果 P 3～7

- ・令和7年度各会計の予算を可決
- ・余市町犯罪被害者等支援条例など17件の条例案を可決
- ・若者の政治参画を促進する抜本的改革を求める要望意見書など3件の意見書を可決

○常任委員会の動き P 8～9

○一般質問 P 10～13

- ・8議員が町政全般について12項目を質問

○代表質問 P 14～19

- ・各会派の代表が町政及び教育行政の基本方針を問う

# どこでも余市町議会 を開催しました

去る 10 月 25 日に福祉センター入舟分館において 2 回目の議員派遣型の懇談会を開催しました。

これまで議会では令和元年と令和 4 年に議会の取組などを町民の皆様様に報告する議会報告会を開催し、令和 5 年にはそれまでの報告会形式での開催から参加される方々との懇談を中心とした議会懇談会形式に見直し開催してきましたが、これまでの開催経過さらには参加された皆様のご意見などを踏まえ、より多くの町民の皆様との懇談を目指し、昨年から開催申込団体があらかじめ指定する会場に議員が直接出向き皆様と懇談する「どこでも余市町議会」を実施することにしました。

当日は「入舟第 2 区会」と『公共施設のあり方について（福祉センター入舟分館の今後について）』をテーマに懇談がなされました。

## 【懇談会での意見等】

・区会の高齢化が進んでおり、東中学校まで 30 分以内に避難できない人もいると考えるため、例えば福祉センター入舟分館を縮小して、代わりに一時的に避難できるものを造っていただきたいと町に要望している。

・福祉センター入舟分館の廃止について町民の声を酌み取るといったプロセスが踏まれていないと感じており、町の 1 次評価にも疑問がある。2 次評価で耐用年数の問題から抜本的見直しとなっているが機能やサービス面は評価されている施設なのでそのように方向付けしていることはいかがなものかと思う。

・福祉センター入舟分館は地域コミュニティ活動の場なので、なくてはならない施設である。これがなくなった場合、町はどのように地域活動を維持しようと考えているのか。

・入舟第 2 区会は積極的に区会活動に取り組んでいるので、そういったことも酌み取って福祉センターの抜本的な見直しを検討していただきたい。

・地域コミュニティを維持するためにには集会所施設が必要であり、施設をなくし区会活動が停滞すれば区会から派遣している様々な組織の取組ができなくなるといった問題もある。

・年々区会員も減ってきているのでこれだけの施設は必要ないが、規模を縮小しても人が集まる場所、防災センターとしての位置づけなどを町としても早めを考えていただきたい。

・コミュニティ活動をするためだけの施設として考えれば児童館の部分だけを改修するという方法もある。

・建物が古く、見直さなければいけないことは誰もが認識していることなので、地元の人間に丁寧にお話をしていただきたい。

・防犯灯の管理費を区会が負担しているが、全て町の負担とするべきではないか。



# 審 議 内 容

## 令和7年第1回定例会 第3回臨時会

令和7年3月6日～24日に開催の第1回定例会での審議結果、4月21日開催の第3回臨時会の審議結果についてお知らせいたします。

# 令和7年度予算を可決しました

| 会 計     |         | 金 額        | 対 前 年 度 |
|---------|---------|------------|---------|
| 一 般 会 計 |         | 108億円      | 2.9%    |
| 特別会計    | 介護保険    | 25億1,355万円 | 1.8%    |
|         | 国民健康保険  | 24億4,790万円 | △5.3%   |
|         | 後期高齢者医療 | 3億8,605万円  | 1.9%    |
| 水道事業会計  |         | 17億1,808万円 | 26.3%   |
| 下水道事業会計 |         | 23億5,347万円 | △25.6%  |

□令和7年度一般会計予算  
□令和7年度介護保険特別会計予算

□令和7年度国民健康保険特別会計予算

□令和7年度後期高齢者医療特別会計予算

□令和7年度水道事業会計予算  
□令和7年度下水道事業会計予算

第1回定例会に提出された令和7年度の一般会計ほか5会計の予算は、令和7年度余市町各会計予算特別委員会（庄巖龍委員長・山本正行副委員長）を設置、付託し、第1回定例会の会期中で審査を行い、それぞれ原案のとおり可決しました。

なお、第1回定例会において、各会計予算特別委員会の審査結果について、委員長報告がなされた後、一般会計予算について討論（反対討論1名、賛成討論1名）がなされました。

### 反対討論

大物 翔議員

昨今、物価高が止まらず多くの家庭が厳しい環境に置かれている。そもそも国が行う政策が不十分すぎるということが前提としてあるが、本町の地域住民への物価高対策はほぼないとい

う状況となっている。他方で、今

本町は公共施設の再編統合や居住地域の縮減、誘導が行われようとしている。人口が大幅に減少する見通しであることを少しでも緩やかにする流れの中で行政コストを抑制し、コンパクトな居住地域編成を目指している。

問題は、これを急激に進めてしまうと町全体のバランスが大きく崩れかねないという点である。

まほろば地域などを中心に政策的に移住定住を中心とした居住誘導が行われているが、居住誘導地域がより広い範囲で設定されているので、重点誘導地域と併せて、もう少し広いエリアに対して修繕の支援や住み替えの支援を行いバランスよく地域を集約していくことが必要である

ことを予算委員会で申し上げてきた。ただ、残念ながら本予算案にはそうした視点があまり浮かび上がってこないということが誠に残念である。自治体自治と自治会自治は非常に密接な関係である。行政の都合だけで自治体自治を縮小していくとすれば、大きな禍根を残すことになるのではないかと。今、町内では疎外感を感じるという声を耳にする。よくよく話を伺うと、町が進めようとしている政策全体、詰まるところ、どのような町をつ

くろうとしているのか、そのビジョンや具体的な手法が地域の方々とうまく共有できていないと感じる点が非常に多いということに気づかされる。全てを理解することは難しくても、少なくとも大きな方向性は、前向きに共有できる環境を整えていかなければ、どれほど必要で、それほど先進的な手立てを政策として打ち出そうとしても、結局反発ばかりを招いてしまうことになるのではないかと。それはやがて人の感情のもつれとなり、地域の分断へとつながる。私は非常にそれをおそれている。広がり続ける時代から、まとめ直す時代へ、大変難しく難しい状況であるが、だからこそ地域の合意形成を意図的にに行い、そうした中でバランスをとってまちづくりを進めていただきたい。以上、こうした視点を踏まえた上で、私は本予算に対して反対の立場を取ることを決めた。

### 賛成討論

佐藤剛司議員

令和7年度の余市町一般会計予算総額は108億円で、前年度当初予算対比3億円、2.8%の増となっており、財源別の状況を見ると、自主財源では



# 審議内容

町税で前年度予算対比1億400万円の増加、繰入金で2億2500万円増の9億8100万円となっており、これらの財源を活用して様々な新規事業や拡充事業、そして継続事業が進められる予算策定になっている。

繰入金9億8100万円のうち、余市町ふるさと応援寄附金基金からの繰入金が6億3400万円となっており、その大部分を占めている。ふるさと応援寄附金は、令和6年度は総額で14億円程度と予想されており、増加の一途をたどっていることは評価すべきものである。今後、ふるさと応援寄附金が安定的に継続実現していくことに向けた施策が実行されることを強く望む。さらにふるさと応援寄附金基金からの繰入金を充当している事業として、保育料無償化事業に2000万円、子育て応援助成事業に970万円、子ども医療助成事業に1250万円、学校給食費無償化事業に6400万円、小中学校タブレット端末更新授業に2050万円、ガストロノミーツーリズム推進事業に3003万円等々が挙げられ、町長の重点政策実現に向けた事業予算財源に大きく寄与していることを読み取ることができる。新規事業等を遂行するための

策予算を策定するに当たっては、裏づけとなる財源をどう確保していくのかが腕の見せどころである。その意味においても、町長並びに財政担当部門の調整力に深く敬意を表するところであるが、財政の弾力性を表す経常収支比率については、令和7年度当初予算ベースで一時期から見ると、改善されてきてはいるものの、高率で推移している感は否めないところもあり、今後においてはなお一層の改善と持続可能な財政基盤の確立に向け、さらなる努力が求められるものである。産業振興の分野で見ると、継続拡充事業としてガストロノミーツーリズム推進事業に前年度予算比から倍増の6000万円を計上し、本町の戦略的なブランディングとマーケティングを推進し展開していくことは余市町の様々な業種に横串を通し、経済循環の活性化と関係交流人口の増加に大きく寄与していくものと大いに期待されるところである。一方、社会保障制度の一環として、生活困窮者、障がい者、高齢者などに対し、生活を維持するために援助、支出する扶助費については17億2000万円で、前年度予算対比で見ると1億2000万円増加しており、できる限りでの拡充、継続し

た手厚い予算措置となっていると理解している。令和7年度町政執行方針では、未来に向けて住みやすいまちをつくるために、「次世代の可能性を引き出す」、「資源を最大限活用しまちを持続・発展させる」、「激動する社会に対応する」との3つの指針が掲げられているが、その中にこれまでの概念にとらわれずという一文がある。この姿勢こそが、未来に向けた施策行動の原点となるべきものであると強く期待している。以上、明政会としては、令和7年度余市町各会計予算特別委員会における審査の経緯を踏まえ、令和7年度余市町一般会計予算については賛成すべきであるという結論に達した。

## 人事 案件

□余市町農業振興協議会委員の推薦について

任期満了に伴い、藤野博三議長、山本正行議員を推薦しました。

□余市町政治倫理審査会委員の選任について

## 補正 予算

一般会計

□令和6年度一般会計補正予算(第10号)

総額7億3312万円を追加

◆主な補正内容

○寄附に伴う各種基金積立金  
9億6482万円

○ふるさと納税取扱業務委託料  
5545万円

○余市町生活バス路線運行費補助金  
367万円

○地域街路灯LED化事業補助金  
110万円

任期満了に伴い、次の方々を選任しました。

(再) 伊藤 勝也 氏  
(再) 岩本 尚禧 氏  
(再) 杵淵 瑞枝 氏  
(再) 隅本 幸子 氏  
(再) 芳賀 よう子 氏  
(再) 平岩 聖司 氏  
(再) 平田 進 氏

○戸籍記載事項確認通知書作成委託料  
211万円

○教育・保育給付費負担金  
982万円

○余市町中小企業振興融資保証料補助金  
285万円

○除雪作業等保管倉庫建設工事  
△9900万円

○河川護岸補修工事  
△1億2992万円

○各団地環境整備工事  
△5140万円

○住宅取得等支援補助金  
125万円

□令和6年度一般会計補正予算(第11号)  
総額25万円を追加

◆主な補正内容  
○訴訟弁護士委託料  
25万円

特別会計

□令和6年度水道事業会計補正

予算（第5号）

・資本的支出で1719万円を減額、収益的支出で1120万円を追加

◆主な補正内容

・配水管布設替え事業設計委託事業等の建設改良事業費の確定見込み等によるもの

□令和6年度下水道事業会計補

正予算（第4号）

・資本的支出で7141万円を減額、収益的支出で302万円を減額

◆主な補正内容

・管渠布設事業設計委託事業等の建設改良事業費の確定見込み等によるもの

条例案

□余市町犯罪被害者等支援条例案

令和7年第1回定例会に提案され、民生教育常任委員会に付託し、審査を行っていた「余市町犯罪被害者等支援条例案」については、令和7年第1回定例

会で委員長報告のとおり可決しました。

□余市町統計調査条例及び余市

町水道水源保護条例の一部を改正する条例案

刑法の改正に伴い、所要の改正を行いました。

□余市町行政手続における特定

の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報提供に関する条例の一部を改正する条例案

マイナンバー法の改正に伴い、所要の改正を行いました。

□余市町職員の勤務時間及び休日休暇に関する条例の一部を改正する条例案

関係法令の改正に伴い、時間外勤務免除の対象となる子の範囲を拡大する改正を行いました。

□余市町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例案

関係法令の改正に伴い、所要の改正を行いました。

□余市町特別職の職員で非常勤

のものの報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例案

勤労青少年ホーム運営委員会の廃止に伴い、所要の改正を行いました。

□余市町家庭的保育事業等の設

備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案

□余市町指定地域密着型サービスの事業の人員、設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例案

管理栄養士試験の受験資格見直しに伴う国の配置基準の改正に伴い、それぞれ所要の改正を行いました。

□余市町公営企業に従事する企業職員の給与の種類及び基準に関する条例の一部を改正する条例案

人事院勧告に基づく関係法律の改正により、所要の改正を行いました。

□余市町水道事業の布設工事監督者及び水道技術管理者の資格基準を定める条例の一部を改正する条例案

関係法令の改正に伴い、布設工事監督者及び水道技術管理者の資格要件の改正を行いました。

□余市町議会議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正する条例案

余市町議会議員の報酬月額の改正を行いました。

□余市町特別職の職員の給与及び旅費並びにその支給方法に関する条例及び余市町教育長の給与及び勤務時間等に関する条例の一部を改正する条例案

□余市町議会の個人情報の保護に関する条例の一部を改正する条例案

関係法令の改正に伴い、所要の改正を行いました。

□余市町税条例の一部を改正す

る条例案

個人住民税の配偶者、扶養親族に係る所得要件の緩和に伴う改正及び固定資産税の課税標準の特例措置等の追加と一部現行措置の期間延長に伴う改正を行いました。

□余市町都市計画税条例の一部を改正する条例の一部を改正する条例案

固定資産税の課税標準の特例措置等の追加と一部現行措置の期間延長に伴う改正を行いました。

□余市町国民健康保険税条例の一部を改正する条例案

政令の改正に伴う賦課限度額（基礎賦課分・後期高齢者支援金賦課分）の改定と軽減判定所得の基準額の見直しに係る改正を行いました。

□余市町農業振興協議会条例の一部を改正する条例案

農業振興協議会委員を委嘱している団体の名称変更に伴う改正を行いました。

## 審 議 内 容

|   |   |
|---|---|
| の | そ |
| 案 | の |
| 件 | 他 |

□工事請負契約締結事項の変更について

令和6年度余市運動公園野球場改修工事について、工事請負金額の増額に伴い、契約金額を1億2738万円から1億2986万6千円に変更しました。

□町有財産の取得について

○道の駅建設用地

価格 3690万7448円  
取得先 余市川土地改良区 理事長 坂東義一外9名

□余市町の特定の事務を取り扱う郵便局の指定について

個人番号カード用署名用電子証明書の発行の申請受付等の事務を取り扱う郵便局として余市沢町郵便局を指定しました。

## 行政報告

□損害賠償請求事件について  
〔令和7年3月24日開催第1回定例会〕

損害賠償請求事件について行政報告を申し上げます。

本件は、令和6年6月に本町が管理する余市運動公園野球場付近園路に駐車されていた車両に、野球場利用者の打球が衝突し発生した自動車破損事故において、損害の責任原因の一部が本町にあるとして、令和7年2月21日富良野簡易裁判所に提訴されたものであります。

本町に対する訴状の趣旨は、本件野球場が通常有すべき安全性を欠き、他人に危害を及ぼす可能性のある危険な状態であったことへの設置・管理瑕疵に対し、損害の賠償責任を求められたものであります。

今回の事件では、原告が弁護士を訴訟代理人としていることから、本町といたしましても訴訟代理人として専門的知識を有する弁護士へ委任し、対応してまいりたいと考えているところでございます。

# 議会のホームページを開設しています



余市町議会のホームページを随時更新し、会議の予定、審議結果、会議録、議会だよりなど、議会からの情報発信に努めています。

さらなる充実に向けて忌憚のないご意見をお寄せいただければ幸いです。

ご覧になる場合は、余市町公式ホームページの「余市町議会」のバナーをクリックしてご覧ください。

<http://www.town.yoichi.hokkaido.jp/gikai/index.html>

余市町議会

検索

# 議案に対する各議員の賛否一覧

各議員の賛否結果が分かれた案件（欠席・退席含む）を掲載しています。

## 第1回定例会 議案に対する各議員の賛否一覧表

○：賛成 ×：反対 欠：欠席 退：退席

| 件 名                               | 審議結果 | 明政会  |       |     |      |      |      | よいち未来 |       |      |       |       | 公明党   |     | 会派に属さない議員 |     |
|-----------------------------------|------|------|-------|-----|------|------|------|-------|-------|------|-------|-------|-------|-----|-----------|-----|
|                                   |      | 佐藤剛司 | 内海富美子 | 庄巖龍 | 中井寿夫 | 伊藤正明 | 茅根英昭 | 山本正行  | 尾森加奈恵 | 岸本好且 | 川内谷幸恵 | 土屋美奈子 | 白川栄美子 | 寺田進 | あじストミート   | 大物翔 |
| 令和7年度余市町一般会計予算                    | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ○     | ○     | ○    | ○     | ○     | ○     | ○   | ○         | ×   |
| 令和7年度余市町介護保険特別会計予算                | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ○     | ○     | ○    | ○     | ○     | ○     | ○   | ○         | ×   |
| 令和7年度余市町国民健康保険特別会計予算              | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ○     | ○     | ○    | ○     | ○     | ○     | ○   | ○         | ×   |
| 令和7年度余市町後期高齢者医療特別会計予算             | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ○     | ○     | ○    | ○     | ○     | ○     | ○   | ○         | ×   |
| 令和7年度余市町水道事業会計予算                  | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ○     | ○     | ○    | ○     | ○     | ○     | ○   | ○         | ×   |
| 令和7年度余市町下水道事業会計予算                 | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ○     | ○     | ○    | ○     | ○     | ○     | ○   | ○         | ×   |
| 余市町統計調査条例及び余市町水道水源保護条例の一部を改正する条例案 | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ○     | ○     | ○    | ○     | ○     | ○     | ○   | ×         | ○   |
| 余市町職員の勤務時間及び休日休暇に関する条例の一部を改正する条例案 | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ○     | ○     | ○    | ○     | ○     | ○     | ○   | ×         | ○   |
| 選択的夫婦別姓制度の導入を求める要望意見書             | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ○     | ○     | ○    | ○     | ○     | ○     | ○   | ×         | ○   |
| 性犯罪の再犯防止への支援強化を求める要望意見書           | 原案可決 | ○    | ○     | ○   | ○    | ○    | ○    | ×     | ×     | ×    | ×     | ×     | ○     | ○   | ○         | ○   |

## 第3回臨時会 議案に対する各議員の賛否一覧表

|                   |      |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |   |
|-------------------|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 余市町税条例の一部を改正する条例案 | 原案可決 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ | × | ○ |
|-------------------|------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|

※藤野博三議長は採決には加わりません。

# 要望意見書の審議結果

第1回定例会で提出のあった意見案についてお知らせします。

| 件 名                        | 議案の提出者    | 審議結果 | 意見書の提出先                     |
|----------------------------|-----------|------|-----------------------------|
| 若者の政治参画を促進する抜本的改革を求める要望意見書 | 議会運営委員会委員 | 原案可決 | 内閣総理大臣ほか関係大臣<br>衆議院議長・参議院議長 |
| 選択的夫婦別姓制度の導入を求める要望意見書      | 議会運営委員会委員 | 原案可決 | 内閣総理大臣ほか関係大臣<br>衆議院議長・参議院議長 |
| 性犯罪の再犯防止への支援強化を求める要望意見書    | 寺田進議員ほか1名 | 原案可決 | 内閣総理大臣ほか関係大臣<br>衆議院議長・参議院議長 |

※全会派の同意が得られた要望意見書は議会運営委員会の委員が提出者となっています。



# 常任委員会の動き

## 【総務産建常任委員会】

閉会中における各常任委員会の活動状況について、主要な調査事項などをお知らせします。  
各常任委員会の記録は、町立図書館に配置しておりますので、ご利用ください。

### 道の駅再編整備について調査を行いました。

【第18回】

(令和7年1月16日開催)

○道の駅再編整備について

(所管事務)

令和6年12月20日に行われた民間事業者による道の駅再編整備に係る最終の提案が当初の提案と比べ、テナント数(民間)の減少などに伴い、町内の経済波及効果や冬季の集客等について町が期待する効果が十分ではないと判断したため詳細協議は不成立となったが、現在の計画地に道の駅を整備する方針に変更はないため用地の購入については引き続き進めていきたいとの説明を受け、今後のスケジュールや町民への周知方法などについて審議しました。

○役場庁舎の在り方について

(報告案件)

現在の役場庁舎は昭和46年に建設され、平成7年に実施した耐震診断で耐震性が確認されている期間は残り10年程度であることから、役場庁舎の現状や課題の整理を行うために各部長、関係課長で組織する役場庁舎整備検討委員会を設置し、在り方について協議検討を始めていく旨の報告を受けました。

【他の審議案件】

(所管事務)

○災害時相互支援に関する協定について

○余市港機能向上計画の策定について

(報告案件)

○余市町公共下水道事業経営戦略の改定について

【第19回】

(令和7年2月17日開催)

○統一的な基準に基づく財務諸表について(所管事務)

令和5年度決算に基づく一般会計貸借対照表・行政コスト計算書・純資産変動計算書・資金収支計算について説明を受け、審議しました。

○建設工事に係る入札執行状況について(所管事務)

令和7年1月末までの予定価格500万円以上の工事について、工事の種類別件数、平均落札率及び落札状況等について説明を受け、審議しました。

○建設工事等における入札制度見直しの取組みについて

(所管事務)

令和6年度の建設工事等の入

札方式と今後の方針等について説明を受け、審議しました。

○選挙体制の変更について

(報告案件)

これまで第2投票区の投票所として余市町勤労青少年ホームを指定していましたが、4月以降に公示又は告示される選挙から第2投票区の投票所を余市町立大川小学校に変更するとともに、投票者数が減少傾向となっている白岩町、潮見町、豊浜町の第9投票区は、新たな第14投票区へ統合し、統合に伴い投票所が遠方となる地域の有権者に対する支援として投票日当日に午前、午後各1回バス等で送迎し、また、期日前投票所を余市町役場のほかに利便性の高い商業施設に一か所設置のうえ、午後7時以降の投票者が少ないことや投票立会人の高齢化に伴い身体的な負担が大きいことなどから、投票日当日の終了時刻を午後8時から午後7時に繰り上げ、午後8時から開票を開始する予定である旨の報告を受けました。

○道の駅再編整備について

(所管事務)

道の駅建設用地として4万4334.53平米の土地の売買仮契約を進めていく旨の説明を

受け、審議しました。

○余市町水道原水の水質検査結果について(所管事務)

令和5年度水道原水の水質検査結果について水道法に基づく水道水質基準51項目のうち原水に係る39項目の結果の詳細等の説明を受け、審議しました。

○余市町地域公共交通計画の策定について(所管事務)

令和6年度で計画期間が満了することから、公共交通の現状やアンケート調査を踏まえ定量的な目標設定や実施すべき取組などについて一部見直しを行い、パブリックコメントを実施し新たに計画を策定する旨の説明を受け、審議しました。

【他の審議案件】

(所管事務)

○「余市町公共施設の在り方の検討」の見直しについて

○余市町デジタル田園都市構想総合戦略の策定について

○令和6年度除排雪業務等の状況について

(報告案件)

○住宅取得等支援補助制度について

○空家住宅除却費補助制度について



# 常任委員会の動き

## 【民生教育常任委員会】

閉会中における各常任委員会の活動状況について、主要な調査事項などをお知らせします。  
各常任委員会の記録は、町立図書館に配置しておりますので、ご利用ください。

### 町営斎場建替事業について調査を行いました。

【第19回】

(令和7年1月24日開催)

○犯罪被害者等支援制度について(所管事務)

犯罪被害者等基本法に定める基本理念にのっとり北後志5か町村における犯罪被害者等の支援に関する基本理念を定めることと北後志5か町村が連携し、犯罪被害者等の支援に関する姿勢を明確にするため支援条例を制定したい旨の説明を受け、審議しました。

○物価高騰対応重点支援給付事業について(報告案件)

国の臨時交付金を活用してエネルギー価格や食品価格等の物価高騰の影響が大きい世帯に対し給付金を支給する旨の説明を受け、審議しました。

○社会福祉施設等物価高騰対策事業について(報告案件)

国の臨時交付金を活用して物価高騰の影響を受けている町内の福祉、介護の関係事業所に対し施設規模や利用者数に応じて助成金を支給し、事業継続を支援する旨の報告を受けました。

○第3期余市町子ども・子育て支援事業計画の策定について

(所管事務)

令和7年4月から令和12年3月までの5年間の計画期間とし、令和7年1月27日から1か月間パブリックコメントを実施する旨の説明を受け、審議しました。

○余市町健康づくり計画(いのちを支える余市町自殺対策行動計画)の策定について(所管事務)

令和17年までを計画期間とし、令和7年1月27日から1か月間パブリックコメントを実施する旨の説明を受け、審議しました。

〔他の審議案件〕  
(報告案件)

○調停の成立について

【第20回】

(令和7年2月19日開催)

○令和6年度事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等報告書について(所管事務)

教育委員会が行った令和6年度事務の管理及び執行状況の点検及び評価等について説明を受け、審議しました。

○余市町立学校適正配置等検討委員会について(所管事務)

令和4年度に策定された余市町立学校適正規模・適正配置基

本計画に基づき、よりよい教育環境の構築と質の高い学校教育の実現を目指し、既存施設を活用する統合パターンと小中一貫校を新設する統合パターンについて検討し、今後の統合の方向性や実現性について審議する旨の説明を受け、審議しました。

○個人番号カード電子証明書更新事業について(所管事務)

マイナンバーカード交付事務費補助金を活用し令和7年度以降に増加が見込まれるマイナンバーカードの更新事務を沢町郵便局に委託し、町民の利便性を高める旨の説明を受け、審議しました。

○余市町クリーンセンター整備計画について(所管事務)

令和6年度に実施した一般廃棄物最終処分場基本設計業務における配置案や令和9年度の供用開始までのスケジュール等について説明を受け、審議しました。

○町営斎場建替事業について(所管事務)

過去の経過や基本計画策定業務の結果、今後事業を進めるに当たった課題と対策、供用開始までのスケジュールについて

説明を受け、審議しました。

○和痛分娩の費用助成について(所管事務)

令和7年度から周産期医療センターである小樽協会病院において和痛分娩が可能と医師が認めた第2子以降出産の方に対し助成を行う旨の説明を受け、審議しました。

〔他の審議案件〕  
(所管事務)

○犯罪被害者等支援制度について

○戸籍法の改正に伴う氏名の振り仮名の法制化について

○余市町クリーンセンター受付時間の変更について

○環境調査の概要令和5年度版について

○国民健康保険税について

○带状疱疹ワクチンの定期予防接種化について

○がん精密検診の費用助成について

【第21回】

(令和7年3月11日開催)

(付託案件)

○議案第17号 余市町犯罪被害者等支援条例案

# 一 般 質 問

第1回定例会での一般質問は、8人の議員から12件の町政全般に対する質問がありました。  
一般質問は、一問一答方式により、質問、答弁を合わせ制限時間45分の範囲内で行い、議会だよりに掲載している内容の要約は質問した議員みずからが要約し、その原文を掲載しています。

## 尾森加奈恵議員

(よいち未来)

### 地元食材を生かした食育推進による地域活性化の展望について

質問 尾森議員 食育推進に關わり、次の事項を伺いたい。

①現在、給食で使用されている地元食材の状況と、登小学校で余市産の食材を6割以上使用したよいち給食デーを全町的に実施する取組の進捗について。

②給食に地元食材を活用することで地域の農業や漁業の活性化にもつながると考えるが、給食を通じた地元産業の支援策や生産者と学校の連携強化について。

③食育推進の活動をする上で関係団体が資金を必要とする場合の財政支援について。

④有機農業でつくった商品の市場を育てる手段として給食の活用が考えられるが見解について。

答弁 前坂教育長 ①今年度は昨年より10回増え約50回の使用となっており、よいち給食デーについては引き続き給食食材の地場産品の活用を推進し、全町的なコーディネートと部分的な試行等も具体的に検討します。

②食育推進計画に基づく取組の中で給食を通じた地元産業の支援策や生産者と学校の連携を強めていきます。

答弁 齊藤町長 ③食育の関係団体に補助金を出していますが、事業のために必要であれば交付金を申請することは問題ないと考えます。

④コストの上振れと量の確保を解決することでサステナブルな経済と農業の循環がつくられると考えます。

質問 尾森議員 ②本町には水産加工業者や、野菜、果物を加工・販売する事業者があり、地元で採れた魚や農産物を加工業者が給食調理に最適な状態に加工するなど事業者と連携することを取り扱えない食材の受入れが可能となり、調理員の負担軽減、地域内の経済循環につながると考えるが、見解を伺いたい。

答弁 前坂教育長 ②広く地元業者の食材を使う方向性で進めていきたいと考えます。

質問 尾森議員 ④本町の豊富な食材を持続的に生産供給する体制づくりとはどのようなものか、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 ④手間と人手をかけたものはマーケットで適正な価格で消費されることによつて、また、大規模な消費が必要

なもの、きちんとマーケットが消費してくれるよう情報提供することで消費と供給のバランスの取れたサステナブルな農業が推進できると考えます。

## 大物 翔議員

(無会派)

### 保育所の保育環境の改善について

質問 大物議員 町立保育所は、いずれも築年数がおおむね40年を経過しており、冬場に町立保育所の室内を歩くと足裏を通して寒さが伝わってくるほどで、長時間床に座るなどして遊ぶ子どもや保育士などは知らないうちに体温を奪われていくことになるので、ジョイントマットやクッションフロアを敷くなど、床の保温性や断熱性を高め、子どもや保育士の健康を守る取組を進める必要があると考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 床の断熱材としてグラスウールが使用されていますが、築40年を経過していることから、断熱効果の低下があると思われる、クッション性と断熱性のあるジョイントマット

### 来庁者の負担軽減に向けた役場庁舎の改善について

質問 大物議員 町内の公共施設は、昔ながらの設計の建物が少なくなく、特に役場庁舎は、地下1階や2階に用事があるのに、階段が急で上がり下がりがつらいとの声が年々増えており、また、案内板はあるが、どの課を訪ねればいいのか分からない、複数の課にまたがる用事だと建物内を何度も行き来しなければならぬなど困ったという声を聞くため、バリアフリー化や設備改修、担当課の配置場所の工夫や総合案内窓口の設置、検討など来庁者が利用しやすいように役場の改善が必要と考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 バリアフリー化については、昭和47年建設の庁舎建物内部に現行バリアフリー法に対応するようなエレベーターを設置することは物理的に不可能となっており、配置場所については、主に住民が利用する窓口は1階に集約し、令和元



# 一 般 質 問



福祉、保険に関するワンストップ窓口

年度には子育て支援の窓口を一本化、福祉、保険に関するワンストップ窓口の設置などの工夫をしているところで、総合案内窓口の設置については、限られた庁舎スペースで設置スペースや人員を確保することは困難と考えており、役場に來られた方には、職員にお声がけいただければ担当窓口をご案内し、訪問先が分からなくて困っている方を見かけた場合は職員からお話しかけをする対応をしており、今後もその対応を継続していきます。

## 土屋美奈子議員 (よいち未来)

### 余市町公式ホームページの在り方について

**質問 土屋議員** 余市町公式ホームページは情報発信としての役割を果たしているが、利用のしやすさについて課題があると考えるが、次の事項を伺いたい。  
① ホームページの使いやすさに関する見解と、課題の認識について。  
② 各区会へ向けて閲覧板などの紙媒体の広報を廃止し、今後はホームページと余市町ライン公式の広報に移行するとの説明があったが、どのような広報体制としたのか。  
③ 過去5年間のアクセス数について。  
④ 町民が必要な情報に迅速かつ容易にアクセスできるよう、ホームページのデザインや構成を見直してはどうか。  
⑤ 現状ホームページの情報はオープンデータとして提供されておらず、利用に制限がある状態だが、例えば北海道のように情報をクリエイティブ・コモンズ・ライセンスの下で提供するなど、

取組に対する見解について。  
**答弁 齊藤町長** ①④ ホームページは文字サイズの変更や言語の選択など、町民や観光客が使いやすいように配慮しています。が、行政情報の掲載が多く、見つけづらさや内容が行政表現になりがちであると認識しており、今後の更新で分かりやすい表現や画像、図などを用いて見やすいホームページ作りに努め、最新の情報を発信していきます。  
② 町広報については、区会の配付作業の負担軽減を図るため、令和7年度より閲覧板は電子版へ移行し、広報本紙と折り込みチラシについては、当面紙媒体の発行を継続し、各区会のご協力をいただきながら、各世帯へお届けします。  
③ 年度ごとのアクセス数は、令和元年度が72万件、令和2年度が96万件、令和3年度が120万件、令和4年度が120万件、令和5年度が108万件です。  
⑤ 本町のオープンデータは、北海道オープンデータポータルを介して介護サービス事業所、医療機関、指定緊急避難場所及び避難所に関するデータを公開しており、今後どのようなデータを追加公開するか検討を進めます。

**質問 土屋議員** チャットボツ

トの導入に対する見解について。  
**答弁 齊藤町長** 導入のコスト、メリット、デメリットを考えながら、検討していきます。

## 内海富美子議員 (明政会)

### 西部地区のまちづくりについて

**質問 内海議員** 余市町では、まちづくりの最上位計画である第5次余市町総合計画の下、余市町都市計画マスタープランや余市町立地適正化計画のコンパクト・プラス・ネットワークの考え方を踏まえ、急激な人口減少と少子高齢化への対応が取られ、住みよいまちづくりが進められているが、これまでの現状分析などを踏まえ、余市発祥の地である西部地区について、次の事項を伺いたい。

① 都市計画マスタープランは、見直しから1年が経過するが、西部地区ではどのような取組を実施したのか。  
② 令和5年度と令和6年度の西部地区におけるデマンド交通試験運行の利用実績について。

**答弁 齊藤町長** ① 余市発祥の

地であるものの空き家や空き店舗が目立ち、新たな魅力を付加して活性化を図ることが必須との課題を整理し、富沢町の商店街を地域商業拠点、余市港から道道余市港線沿線を産業拠点、円山公園を市民レクリエーション拠点とそれぞれ位置づけ、これらをつなぐ国道229号、道道余市港線等の各種道路網と併せて目指すべき都市像を定めており、将来に向けてコンパクトで持続可能な都市づくりを進めていきます。  
② 令和5年度は令和6年1月から2か月間、梅川、沢、豊丘地区で運行し、運行回数25回、乗車人数78人となっており、令和6年度は、梅川、沢、豊丘地区に加え、港、富沢地区で運行し、令和6年8月から令和7年2月末までの運行期間のうち、1月末時点で運行回数137回、乗車人数380人となっています。

**質問 内海議員** ① 西部の町政懇談会では高齢者の移動手段や学校の老朽化対策など多数の希望があり、地区の住民が潤いを持って生活できる施策を進めていただきたいが、見解について。

**答弁 齊藤町長** 公営住宅の長寿命化計画や円山公園のサテライトオフィスの整備、デマンド交通の設定など、生まれ育った



地域で快適に過ごせるような施策を実施しています。

**質問 内海議員** ②富沢5丁目から神社の前や港町を通るルートも必要だと考えるが、見解について。

**答弁 齊藤町長** 協議会で一番適切な方法を決め、来年度から本格運行に移行します。

## 山本 正行議員 (よいち未来)

### 新型コロナウイルス クチン接種について

**質問 山本議員** 新聞記事によると、道内で新型コロナウイルスの感染者が初めて確認されてから丸5年が経過し、2024年の道内の感染者数は、指定医療機関のみの定点把握で約8万1500人となり、感染のピークだった2022年の4割程度であるが、専門家は全数把握にすれば46万人超だと推計しており、診察を受けていない隠れコロナの感染者も想定され、実数はより多い可能性があることや、今後、米国で流行中の感染力がより高いXECが日本国内で広がるおそれがあるとの報告もあることから、次の事項を伺いたい。

①町内における実感染者数を把握することは可能なのか。

②65歳以上と以下の予防接種の対象者数と接種済みの人数について。

**答弁 齊藤町長** ①町内における実感染者数は、2021年5月8日から全国約5000の医療機関から患者数の報告を受ける定点把握に移行していることから、把握していません。

②定期接種対象者の65歳以上は、令和6年10月1日現在で6966名であり、令和7年1月末までの接種者数は1185名で約17%、65歳未満の定期接種対象者である60歳から64歳までの心臓、腎臓、呼吸器及びヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能のいずれかの障がいにより身体障害者手帳1級所持者は9名であり、接種者は3名で約30%で、定期接種以外の方は任意接種のため把握はしていません。

**質問 山本議員** ②新型コロナウイルスワクチンの接種率が低い理由としてインフルエンザワクチンより自己負担が高いことが考えられるが自己負担額を1000円に引き下げてはどうか。

**答弁 齊藤町長** ②なぜ新型コロナウイルスワクチンの接種率が低いのかは検証する必要がある、需要を見て今後検討します。

**質問 山本議員** ②町民の健康と生活を守るといふ政策として、前向きな検討をしていたいただきたいが、見解を伺いたい。

**答弁 齊藤町長** ②小樽市でも3300円の自己負担で実施しており、接種率が低いのはインフルエンザワクチンと比較して値段が高いという理由だけではない可能性もあることから、趨勢を見守りながら今後検討します。

## 佐藤 剛司議員 (明政会)

### 他自治体との交流について

**質問 佐藤議員** 他自治体との交流について、次の事項を伺いたい。

①ジュヴレ・シャンベルタン村との親善都市協定は将来的にメリットが大きいと考えるが、町長が想定している効果や、この協定をどのように持続的に発展深化していくのか。

②締結式に随行職員はいなかったが、職員の関わり方について。

③会津若松市などの他自治体との交流を今後どうしていくのか。

**答弁 齊藤町長** ①協定を契機としてワイン生産技術の交流や観光、文化分野での連携を進めるとともに、相互に学び合いながら両地域のさらなる発展につなげていきたいと考えます。

②今後、その分野ごとに関係職員が協議、交渉など事業の具体化及び実施に向けた作業を担っていきます。

③交流都市懇談会への参加やふるさと納税コラボ商品の開発などを行っており、台湾の2地域については相互の訪問交流などを検討しています。

**質問 佐藤議員** ①ジュヴレ・シャンベルタン村と余市町を比較した印象について。

**答弁 齊藤町長** ①世界最高のワイン産地と、新しい世代の余市町が手を組めるといふことは奇跡のような素晴らしいことであり、余市町にとっては莫大なメリットがあるという印象を持っています。

**質問 佐藤議員** ①担当部局との情報共有について。

**答弁 齊藤町長** ①ワイナリーを目標して観光客が世界中から集まってくることから、観光客をもてなす体制が整っており、ワイン産地として今後の余市の

まちづくりにも参考になり人口が少なくとも世界中から富を集約できる一つのモデルケースなので、どういうまちづくりをしていくかというのは、きちんと担当部局にも共有する方針です。

**質問 佐藤議員** ③他自治体と交流することで余市町にもメリットがあると考えますが、他自治体と交流があった場合、広報などで大々的にPRする必要があるのでないか。

**答弁 齊藤町長** ③交流して様々な文化的な側面やまちづくりを学ぶことに関しては、メリットがあるので、交流の覚書のようなものは受ける方針であり、交流があった際はきちんと広報で発信する必要があると考えます。



奈良県五條市との交流 (味覚の祭典)

ジャストミートあたる議員

(無会派)

入湯税の未納について

ついて

質問 ジャストミートあたる議員 令和元年から令和5年の決算書に、歳入において入湯税が未納となっているが、町からの周知がなく、現在も未納状態の入湯税を知らずに事業者に支払い、温泉施設を利用している町民がいることに行政の不作为を感じるが、次の事項を伺いたい。

- ①今後どのように徴収するか。
- ②入湯税が5年も未納であることを町民に周知しないのか。
- ③徴収できない入湯税は廃止としたほうが公共の福祉の向上と考えるが、見解について。

答弁 齊藤町長 ①特別徴収義務者との交渉を継続します。

②税に関する個別の情報は一切公開していません。

③法令により廃止することはできませんが、今後の課税免除の取組については、他の自治体の状況も参考にしながら検討することは想定しています。

犯罪被害者支援制度と第23号

損害賠償請求事件の控訴について

質問 ジャストミートあたる議員 原告側弁護士1人に対して町側は7人で対抗した結果、完全敗訴し、それを容認できないということだが、ひどい内容なので控訴を取り下げるべきだと思いがその選択肢はあるか。

答弁 齊藤町長 控訴審がいまだ始まっていない段階であることから、答弁できかねます。

給食費無償化が全国的に実現されたその後について

質問 ジャストミートあたる議員 自民、公明、維新による3

党合意文書に、給食費無償化が記載されたが、国の施策が実現されると令和8年度から段階的に給食費無償化に使われている6000万円の予算が裁量的予算となること予想されることから、年間で小中で1760万円必要な修学・研修旅行費等にお金を回し、無償化できないか。

答弁 齊藤町長 今の段階で明言することはできません。

質問 ジャストミートあたる議員 ふるさと納税も活況という

ことで検討していただきたく、子育て世代の移住にもつながると思うが、見解について。

答弁 齊藤町長 様々な切れ目のない対策をやっています。

黒川小学校で問題になった児童に対する暴行について

質問 ジャストミートあたる議員 黒川小学校にて教師による児童への首絞め等の暴行騒ぎがあり、保護者から教育委員会と学校の対応に誠意が感じられないと相談があり、保護者側と強い対立があったが解決に至ったとのことだが、事実か。

答弁 前坂教育長 答弁を差し控えてさせていただきます。

白川栄美子議員

(公明党)

障がいのある人のコミュニケーションハンドブックの活用状況について

質問 白川議員 町では公明党の提案で障がいのある人とのコミュニケーションハンドブックを作成しており、昨年の代表質問では、ハンドブックを活用し、

相互理解の啓発を推進していくと答弁されたが、ハンドブックの活用状況について伺いたい。

答弁 齊藤町長 町民の皆様に様々な障がいの特性を理解していただくように町のホームページで周知、啓発し適切な配慮につながるように活用を促しており、昨年12月の民生委員協議会で障がいごとに配慮する内容の説明や活用方法などについての研修を実施しています。

質問 白川議員 心身障がい者の中でも知的障がい、精神疾患の方も増えているが、それぞれを持った障がいを理解することで、障がいを持った方が手助けを必要とするときに、偏見の目で見ないで手を差し伸べられることが必要だと考えてハンドブックの作成を提案したが、ハンドブックはどのくらい作成したのか。

答弁 齊藤町長 100部ほど印刷し、役場や福祉センター、福祉センター入舟分館、公民館図書館などに配付しており、ホームページでも公開しています。

質問 白川議員 障がい者への理解を深めるためにサポート養成講座を実施するべきと考えますが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 ハンドブックを活用しながら、様々な関係団

体とも協力し障がいのある方への理解促進に引き続き取り組みます。

質問 白川議員 関係機関との連携は必要だが、一般の人を対象にした支援活動や取組をしていくべきと考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 町民向けに開くのは、取りまよめの団体が必要ですが、要望があれば関係団体と啓発について引き続き調整をして、活動していきます。

質問 白川議員 介護のサポート養成講座は町から発信しているが、障がい者については、そういう状況にはなっていないと考えており、若い世代に障がいを理解してもらうためにハンドブックを活用しながら町民講座を開くことや、町からの発信が必要だと考えるが、見解を伺いたい。

答弁 齊藤町長 必要に応じていろいろな理解促進講座をやる中で検討していきます。



障がいのある人とのコミュニケーションハンドブック



# 代 表 質 問

令和7年度の各会計予算の大綱説明・町政執行方針・教育行政執行方針に対し、各会派がそれぞれ代表質問を行いました。

【掲載順は会派代表質問を行った順序です。】

## 明政会

Q 質問者：茅根英昭議員

## 町政全般

A 答弁者：齊藤啓輔町長

**Q** 町営斎場の早期竣工について。  
**A** 今後、基本設計、実施設計に着手し、進捗状況を詳細に把握し、工期短縮に努めていきます。

**Q** 道の駅の成否について。

**A** 広報、ホームページで周知を行うとともに、必要に応じて説明会を開催し町民からご意見、ご要望をいただきながら再編整備を進めていき、目的地とされる魅力のある道の駅とすることで、既存の飲食店街に新たな顧客創出につながると考えますが、詳細協議が不成立となったことから今後の方向性、体制整備について再検討をしていくとともに、取得した用地の地盤整備を進めていきます。

**Q** JR並行在来線問題の取組とビジョンについて。

**A** 並行在来線対策協議会で長万部・小樽間の経営分離後の地域交通の確保方策についてはバス

方式とすることで確認されており、大量輸送、迅速輸送の確保、交通拠点の整備など利用者の便益が担保されることを前提としてバス転換に同意していますので、今後も北海道や沿線自治体、バス事業者などと継続的に協議を進めていきます。



JR余市駅

**Q** 関係人口と交流人口の拡大に向けた諸施策の推進について。

**A** 交付金事業を活用してKPIを設定し、各担当で測定を行い評価を行っており、特にふるさと納税寄附件数は当初の目標を大幅に超過し、町内事業者への波及効果は大きいものと認識していますが、観光客の入込数については、コロナ禍の影響を受け、ガストロノミーリズム

を活用した観光客誘致と観光消費額の増加が課題となつていまして、ワイン産業や観光資源を生かした施策による魅力あるまちづくりが関係人口、交流人口の増大につながるもので、今後の地域経済の発展にとって不可欠なものと考えています。

**Q** 産後ケア事業について。

**A** デイケア型とアウトリーチ型を実施しており、利用者からのアンケートでは、助産師からのアドバースにより精神的に楽になった、赤ちゃんの体調管理を聞けてよかった、肩凝り解消のストレッチ等についてもアドバースをもらいありがたかったなどの声が寄せられており、今後アンケート結果を参考にきめ細やかな支援に努めます。

**Q** 医療・介護・福祉等の人材確保及び定着支援について。

**A** 現在町内高等学校を対象に介護福祉学校の講師、生徒を招き講義や座談会を実施し、介護の魅力を発信しているほか、外国人を直接雇用した町内介護施設、事業所が負担した生活資金等に対する助成も実施しており、令和6年2月末時点で6名の助成、介護職員への就労、継続支援助成も10名の助成を行っており、

介護人材定着に向けて介助方法に関する講義や他事業所との意見交換を含めた研修会を実施しています。介護職員の不足が顕在化している状況にあり、行政においても介護人材の確保、定着支援への取組が急務と認識しており、今後も引き続き町内事業所との連携に努めます。

**Q** 空き家対策について。

**A** 空き家情報の掲載に関わり、空き家バンクはインターネット環境があれば、どこでも物件情報を閲覧できることから移住希望者に対する有力なツールのため空き家所有者へ適正管理を要請する際に、併せて空き家バンクの周知を図り、空き家の活性化、空き家の利活用を促進する取組については、空き家バンクは管内の市町村や建築、不動産の専門家団体と共同で運営しており、協議会で活性化に向けた取組の調査を進めるとともに、移住促進につながるために、転入者を対象に中古住宅取得補助制度を実施しており、空き家の活用と移住の促進を推進していきます。

**Q** 町内施設の利活用と農道空港の民営化について。

**A** 農道空港については航空機の



離着陸場としての使用はごく少数であり、ラジコン操縦の使用やイベントスペースとしての利用が主ですが、各公的機関の離着陸場として登録もされており、一定程度の利用や意義はあるものの滑走路の長さから離着可能な航空機の制限があることが課題ですが、立地としては良好な景観を持つ登地区に位置し、

余市ICから近いので今後本町の玄関口として集客機能を高めることで他の町内施設への誘導に資する施設になり得ると考えており、ガストロノミーリズムにも寄与する取組としての使用推進の検討、観光利用としての多目的利用の推進、直営管理での離着陸の管制業務は難しいことから航空業界に精通した民間事業者による活用促進も検討していきます。

**Q** 企業版ふるさと納税の推進、企業誘致、移住支援策について。  
**A** 企業版ふるさと納税の活用については使途について一定の要件があるなど安定した財源として見込むことが困難である課題はありますが、余市町としてのブランディング及びプロモーション活動の効果で近年多くの企業より寄附をいただいております。地方創生に向けた各種取組の財

源として有効に活用するとともに、移住支援プログラムについては、令和6年度より主要な施策として実施しているガストロノミーリズム推進事業で各種取組の深化を図り、様々な知見を有する外部人材の指導、助言をいただながら充実に努めます。

**Q** 除雪の方針について。

**A** 身体的、経済的な理由により冬期間自力で除雪ができない高齢者等に対して除雪サービスを実施しており、地域住民との連携による排雪場所の確保に向けた取組について他の自治体や先進事例を参考に調査、研究していきます。

## 教育行政全般

**A** 答弁者…前坂伸也教育長

**Q** 余市魅力教育、幼児、小学校職業体験型教育の活用について。  
**A** 地域社会や事業所に対する理解を深め、地元への愛着や誇りを持ち、進路への関心、意欲を育むキャリア教育の重要性は認識しており、現在も小中学校で職場体験や地元人材との交流を実施していますので、今後も将来のキャリア形成を支援する教育に取り組んでいきます。

**Q** 将来の町立小中学校の適正配置と統合について。

**A** 基本計画の周知に努めており、今年度は検討委員会の設置と統廃合後の教育課程の編成や学校行事等の課題把握や検討を進め、今後は地域住民やPTAなどの関係者と合意形成を図りスピード感を持って方向性を決定していきたいと考えています。

**Q** 社会教育施設の再整備について。

**A** 博物館をはじめ、中央公民館図書館などがありますが、いずれの施設も竣工から年数が経過し老朽化が進んでいることから利用者にご迷惑をかけないように適切な維持管理に注力しており、再整備については、今後全町的な公共施設の在り方について協議が進められていく中で方向性が示されていくものと考えています。

**Q** フッ化物洗口事業について。

**A** 乳幼児期、学童期を通じて虫歯のない健康な歯と口腔をつくることは生涯を通じて心身ともに健康な生活を送ることの基盤になるものと承知しており、中学生のフッ化物洗口については実施に向け調査、研究していきたいと考えています。

## よいち未来

**Q** 質問者…尾森加奈恵議員

## 町政全般

**A** 答弁者…齊藤啓輔町長

**Q** 優先課題や影響分析、長期的な財政健全化、デジタル化の推進による行政コスト削減を反映させた予算編成について。

**A** 事務事業の必要性や経費の削減等の見直しを徹底し、ワイズスペンディングの実行により子育て支援や産業振興施策を拡充・継続するとともに、将来にわたり持続可能なまちづくりの推進と財政基盤の確立を基本とした予算編成としています。

**Q** デジタル技術やAI等の活用にかかる職員のスキルアップについて。

**A** 各種研修への派遣に積極的に取り組めます。

**Q** メンタルヘルス対策など職員が安心して仕事ができる職場環境の整備について。

**A** 次世代育成支援や女性活躍の推進に取り組む、全ての職員が働きやすく能力を発揮できる環

境づくりに取り組めます。

**Q** 高レベル放射性廃棄物最終処分場について。

**A** 本町に設置するつもりはありませんが、持込みについては慎重に対処すべきであり、「北海道における特定放射性廃棄物に関する条例」の趣旨は尊重されるべきものだとして認識しています。

**Q** 「(仮称)古平・余市ウインドファーム」事業について。

**A** 「(仮称)古平・余市ウインドファーム」事業は推進すべきものですが、自然環境や住民生活への影響を鑑みて慎重に判断しなければならぬと考えており、環境影響評価法に基づき国の有識者会議で適切に判断されるべきものと考えています。

**Q** 自然エネルギーを活用した電力の地産地消について。

**A** 公共施設への再エネ設備の設置検討や営農型太陽光発電の調査など本町に適した活用方法について調査を続けています。

**Q** SNS時代に対応した情報リテラシー向上と防犯対策について。

**A** SNS上の情報には虚偽や誤った情報も多くあるため、その

## 問 質 表 代

情報が信頼できるものか確認することが大切だと認識しており、社会全体で意識を高め、啓発活動等を通じて防犯対策に取り組むことが重要であることから関係機関と連携して取組を進めます。

**Q** 外国人ドライバー等に対する交通安全対策について。

**A** 警察庁や全国レンタカー協会でリーフレットの作成や専用ステッカーの作成等の取組を行っており、本町においても啓発活動などの交通安全対策を推進します。

**Q** 地域が支え育む持続可能な町内公共交通ネットワークを構築するための財源確保と運営体制の整備について。

**A** 国や北海道の補助制度を活用しながら余市町地域公共交通活性化協議会において協議、検討を進めます。

**Q** 地域の防災力向上について。

**A** 自然災害及び原子力災害との複合的な災害に対する避難訓練の実施を検討しており、引き続き防災学習等への支援を積極的に行い地域防災力の向上を図ります。

**Q** 原子力防災計画におけるバスでの避難計画の実効性と再評価について。

**A** バスによる避難は北海道と北海道バス協会が定めた住民避難用バス要請・運行要領に基づき行われ、運転手の確保は北海道が国やバス協会と協議して行うこととされています。

**Q** 冬季や複合災害を想定した避難体制の強化について。

**A** 避難所における採暖のための備蓄を進めるとともに必要に応じて計画の見直しを行い、要配慮者に対する避難計画や原子力防災における広域避難計画の実効性を高める取組を強化し、必要な支援を国や北海道に求めます。

**Q** 災害時における情報伝達手段の確保について。

**A** 現在は緊急速報メール、町公式LINE、広報車による巡回Lアラートに連携するテレビ、ラジオ放送、町ホームページなどを活用して情報の伝達を想定し、これらの手段を複合的に使用し迅速かつ広範に情報を伝達することを目指していますが、聴覚や視覚に障がいをお持ちの方々への情報伝達は引き続き効果的かつ効率的な手法を検討し

ます。

**Q** 妊娠、出産、子育て支援について。

**A** 妊娠から切れ目なく、きめ細やかな支援をするため、伴走型支援や産後ケア事業等の支援を図るとともに、医療、福祉、教育など関係機関との情報共有や連携を図りながら各種事業を実施します。

**Q** 病児保育について。

**A** 医療機関へ情報共有を図っていますが、受入れに係る看護師等の人材確保が困難と伺っており、引き続き調査研究します。

**Q** 医療提供体制の整備について。

**A** 北海道地域医療構想に基づき後志管内市町村や医師会と連携を図りながら医療体制の確保に努めます。

**Q** 健康管理と疾病予防について。

**A** 健康学習会等による心身の健康に関する知識の普及啓発並びに各種健診（検診）の受診勧奨を図ります。

**Q** 予防接種について。

**A** 国が示す安全性の情報収集に努めるとともに、余市医師会と情報共有を図り、町民への適切

な情報提供を図ります。

**Q** 通学費の補助について。

**A** 町内の学生が地元へ通いやすいように余市循環線の運行事業者に対する支援を行っており、現時点で地域外への通学者に対する支援を行う考えはありません。

**Q** 町営斎場について。

**A** 関係部署が丸となって関係機関と連携を取りながら定期的な進捗管理を行い、状況の変化に応じて迅速に対応しながら事業を進めるとともに、共同墓地の設置についてはニーズの高まりは認識していることから必要性について調査研究します。

**Q** リモートワーク、副業、兼業について。

**A** 新しい働き方はコロナ禍で全国へ浸透したものの、現在では従来の働き方に戻ってきているという報道もあり、一定程度落ち着いてきたと考えています。

**Q** 介護、観光業の人材不足について。

**A** 全国的な課題であり、U・I・Jターンによる移住者の就業支援や関係機関と連携した季節労働者の資格取得等による通年雇用

化の支援で人材育成を図りながら国、道の動向を注視します。

**Q** 農林水産業対策について、次の事項を伺いたい。

- ① 高齢化、後継者不足、担い手不足対策について。
- ② 新規就農者、新規就漁者への支援について。
- ③ 養殖事業など新たな可能性の調査、研究や磯焼け対策について。

**A** ① 新規就農、新規漁業者の獲得が重要と位置づけています。

② 新規就農活動支援センターによる支援体制の充実と農地保有合理化事業による集約化に努め、新規就漁者につきましても、地域おこし協力隊による取組や国の各種制度の活用を図るとともに、マッチング事業につきましても関係団体と協議のもと進めます。

③ 種苗事業及び養殖試験事業を引き続き支援し、磯焼け対策についても引き続き関係団体と調査研究を進めます。

**Q** 食育の推進について、次の事項を伺いたい。

- ① 学校、保育における地産地消の拡大について。
- ② 高齢者世帯や単身者が対象の食事支援について。



## 代 表 質 問

③食の安全や健康に関する情報提供や食を通じた地域コミュニティの活性化について。

**A** ①余市町食育推進会議の構成団体ごとに実施される取組を有効的に活用するとともに、学校の求めに応じ、地域おこし協力隊や農村活性化センターを活用した取組も検討します。

②個別の栄養相談と区会や老人クラブ等の栄養学習会の実施に努めるとともに、高齢者の自立した生活を支援する生活支援体制の整備に向けて調査研究に努めます。

③求めがあれば各団体へ取り次ぎし調整を図ります。

**Q** 有害鳥獣対策について、次の事項を伺いたい。

①ハンターの育成、確保に向けた取組について。

②解体施設の確保やジビエ料理への利活用について。

**A** ①引き続き猟銃免許取得と更新に係る費用に対する支援を図ります。

②他の自治体の事例も参考に調査研究しますが、ジビエ料理への活用の設備整備には一定数の捕獲実績が必要と考えます。

**Q** ガストロノミーツーリズムの事業効果について。

**A** フランス・ジュヴレ・シャンベルタン村との親善都市協定締結など、国内外へのプロモーション効果は高いものであったと認識しており、今後も国内外への積極的なブランディング・プロモーションを継続するとともに、町内の受け入れ環境整備や機運醸成にも注力し、より実効性のある事業を展開していきます。

**Q** 商工観光対策について。

**A** 商工会議所や金融機関等と連携し、余市町中小企業振興条例に基づく各種支援制度の活用について支援を行っています。



一斉駆除出動前

**Q** 新規起業家への支援について。

**A** 創業支援事業計画に基づく各種支援策や需要の高い空き店舗

を活用した企業支援など、引き続き支援を行っていきます。

**Q** 道の駅再編整備について、次の事項を伺いたい。

①今後の進め方やスケジュールについて。

②本年度予算に計上された道の駅再編整備費998万1千200円の具体的な使途について。

③町民への周知と現在の道の駅の在り方について。

**A** ①今後の方向性、体制整備について慎重に検討し、本町にとって十分に経済効果があり目的地とされる魅力ある道の駅を目指す。

②整備用地が道路より低くなっていることから地盤面のかさ上げが必要であり土砂運搬等と不要な水路の撤去費用です。

③広報、ホームページや必要に応じて説明会を開催し意見や要望をいただきながら再編整備を進めるとともに、現在の道の駅は観光の拠点に位置していることから観光客誘致と観光事業者への支援、事業活性化に向けた取組を継続して進めます。

**Q** 冬期除排雪と道路整備対策について。

**A** 町民生活や経済活動に支障を来さないよう道路の安全確保に

留意しており、今後も効率的で円滑な除排雪体制の構築を図り、可能な限りきめ細やかで臨機応変な対応ができるよう努めます。

**Q** 町民と行政の協働したまちづくりについて。

**A** 町政懇談会やパブリックコメントなどにより町民からの声を町政の推進に生かしたまちづくりに取り組んでおり、今後も町民からの意見を取り入れながら協働のまちづくりを進めます。

**Q** 子どもたちの遊び場の提供について。

**A** 遊び場として利用できる施設、土地は限られています。公共施設の有効活用について引き続き調査研究に努めます。

### 教育行政全般

**A** 答弁者…前坂伸也教育長

**Q** 児童生徒が安心して学び続けることができる環境整備について。

**A** 1人1台端末を活用したオンライン学習が実施され、多様な学びの場を提供しており、困り感を抱える児童生徒の対応も含め今後も児童生徒が安心して学び続ける教育環境の維持に努め

ます。

**Q** 情報モラル教育について。

**A** 児童生徒向けには防犯教室や教職員によるSNSの危険性についての授業を行い、保護者向けには学校だよりや安心メールを通じてお知らせするなど、トランプル防止に向けた指導、啓発の強化に努めています。

**Q** 余市町立学校適正規模・適正配置基本計画について。

**A** 学校運営協議会や教職員、保護者の方々などで構成する検討委員会を設置し、統廃合の方向性について検討しており、学校跡地の活用については地域の方々との意見交換や町部局との協議を重ね、地域の意向やニーズに配慮した活用方法を検討したいと考えています。

**Q** 給食食材への地場産品活用について。

**A** 食育推進計画に基づく取組の中で、生産者と学校との連携を図り地場産品の活用を進めたいと考えています。

**Q** 不登校への支援体制強化について。

**A** 家庭訪問や定期的な電話連絡、スクールカウンセラーや相談員



## 代 表 質 問

の定期的な研修などにより支援体制の充実を図るとともに、引き続き適応指導教室を開設するなど関係機関と連携を図り保護者に対する支援と併せて復帰に向けた取組を進めます。

**Q**虐待、いじめの早期発見について。

**A**虐待については発生予防や早期発見、早期対応ができるよう町の関係部署と情報共有を図っており、今後も児童相談所や警察などの関係機関と連携を強化するとともに、いじめについては生命を尊ぶ心を大切にする健康・安全教育の充実、いじめ調査、いつでも悩みが相談できる「お悩みポスト」を導入しており、引き続き関係機関との連携を図り子どもたちの健やかな生活を確認します。

**Q**教育格差の解消について。

**A**子どもたちは等しく教育を受ける権利と必要な保護及び援助を受ける権利を有していると認識しており、教育機会の均等を確保することを念頭に置き、引き続き保護者の負担軽減に努めます。

**Q**部活動の地域移行への対応について。

**A**部活動の地域移行によって生

じる新たな負担や課題への対応については総合型地域スポーツクラブと連携し検討します。

**Q**通学路の安全確保について。

**A**余市町通学路安全推進会議において合同点検を実施しており、冬期間の危険箇所については学校との情報共有を図り、随時確認をしています。引き続き関係機関と緊密な連携を図り、通学路の安全確保に努めます。

**Q**アクティブラーニングについて。

**A**タブレット端末に効果的な学習アプリを導入し教科の特質に応じて授業に取り入れており、今後も加配教員による職員研修等を通じて小中連携を図り、統一感のある授業改善を推進するなど協働的な学びと個別最適な学びの確立に努めます。

**Q**余市紅志高校との連携強化について。

**A**高校の出前授業として防災講話や福祉科目選択者による介護体験、農業科目選択者による花壇の植栽を通じた交流を行っており、引き続き小中高校の連携強化に努めます。

**Q**学校現場における働き方改革

について。

**A**第3次アクションプランに基づきICTの活用による校務効率化の推進や部活動の地域移行が実施されており、在校時間の縮減について一定の成果が得られているものと認識しており、引き続き学校との連携を密にし、保護者や地域の方々のご理解を得ながら目標達成に向けて努力します。

**Q**生涯学習の実現に向けた整備について。

**A**公民館における文化作品展の出版や文化発表会等における出演、図書館における本の読み聞かせ、文化財施設における説明員などを実践の場として考えており、今後も各種生涯学習に参加している皆様の意見も参考にしながら学習で得た成果を活用できる環境整備をします。

**Q**旧シリパ山スキー場の復活と有効活用について。

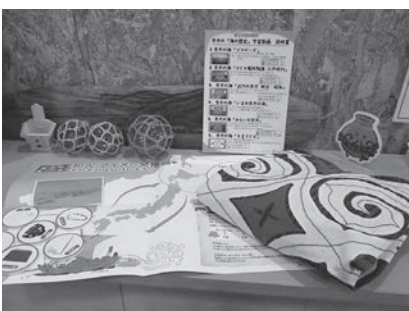
**A**平成17年9月にシリパ山国設スキー場ヒュッテ設置使用条例が廃止されており、冬期間のスポーツの普及についてはジャンプ台周辺を整備し、町民スキー大会や社会体育事業の実施などを今後も継続したいと考えています。

**Q**教育関係施設の適切な管理運営について。

**A**中央公民館における換気機能の改善や女子トイレの一部改修による洋式化を実施しておりますが、引き続き社会教育施設の利用形態等を考慮した中で適切な環境整備に取り組みます。

**Q**SDGsを柱とした環境基本教育の推進について。

**A**社会教育課の職員が中央公民館の寿大学や女性学級で海をテーマとした環境講義を行っており、水産博物館や文化財施設でのSDGs研修を目的とした高校の受入れ学習、企業の研修や北海道大学による研究事業への協力など今後も環境教育に資する学習機会と地域の課題発見や創造的な学びの場の提供に努めます。



余市の海の歴史の学習教材

## 公明党

Q 質問者…寺田進議員

### 町政全般

A 答弁者…齊藤啓輔町長

**Q**防災に関する区会への支援について。

**A**防災ガイドマップの説明会や区会防災活動助成金、そのほか町内の社会福祉施設や団体等に対する防災学習会、町内学校に対する1日防災学校や体験的な学習会を実施しており、令和7年度につきましても引き続き防災に関する自助・共助意識の醸成と防災知識の普及啓発を行います。

**Q**5歳児健診ポータルサイトの導入について。

**A**医師や臨床心理士の体制確保が困難であると考えており、発達障がいのある早期発見については乳幼児健診において対応するとともに、令和2年より就学前の幼児を対象とした余市町フォロワー健診を実施しており、今後も発達障がい等の早期発見及びその支援に努めます。

## 代 表 質 問

**Q** 第2期余市町健康づくり計画に基づく企業・団体との連携について。

**A** 健康増進に関する協定企業と連携し各種健康診断の受診勧奨に努め、区会・老人クラブ等での健康学習会により健康に関する正しい知識の普及に努めます。

**Q** 要支援者支援について。

**A** 民生委員の方とは研修会を通じて連携を深めており、今年度は民生委員の改選期であるため、区会から推薦をいただく中で区会の方の理解をいただきながら支援体制の構築に努めます。

**Q** 障がい者福祉に関する施策について。

**A** 第7期余市町障がい者計画・障がい福祉計画及び第3期障がい児福祉計画において、障がい者への理解の促進、障がいのある人となりの交流機会の創出について取り組むこととなっており、障がいのある人とのコミュニケーションハンドブック等を活用した研修会を実施し、障がいのある方への理解を深めるため、関係機関・団体とも連携しながら障がい者福祉施策の推進に努めます。

**Q** 共生社会の実現を推進するた

めの認知症基本法に基づく計画策定の推進について。

**A** 国で策定する基本計画及び都道府県計画を基本としつつ、地域の実情に即した市町村計画を策定するよう努めることとされていることから、今後、関係部局と連絡を図りながら北海道の動向を注視してまいります。

**Q** 町営斎場建替事業の情報公開と安全対策について。

**A** 今後事業を進めていく中で議会への報告に加え町広報及びホームページ等を通じて情報発信を図るとともに、工事に係る安全対策や供用後の施設における安全確保に努めます。

**Q** 町管理河川について。

**A** 地域の河川愛護組合をはじめ地域との情報共有、相談をしながら直営での維持管理をしており、土砂等の堆積状況を確認し必要な箇所については定期的なしゅんせつをしています。

**Q** 下水道管一斉調査の結果について。

**A** 国による事前調査が行われているところですが、現時点では条件に該当する管路はありません。

**Q** 晩腐病などブドウの病害対策について。

**A** 生産者、関係機関との情報共有、対策方法の協議の中で、根絶することは実現性が低いという認識の下、巻きつるの除去や効果的な薬剤散布により発生を防ぐ対策の効果を検証することとなっており、適切な防除体系の確立が重要と考えます。

### 教育行政全般

**A** 答弁者：前坂伸也教育長

**Q** 働き方改革の推進について。

**A** 働き方改革アクションプランの実行や加配教員の配置により、教員の時間外労働の縮減を図られており、教材研究や児童生徒と向き合う時間が確保されております。

**Q** 質の高い学びの定義について。

**A** タブレットを活用した授業、加配教員の配置やチームティーチングなどにより個別最適な学びと協働的な学びを一体的に推進することで自ら考え問題解決のための思考力を身につける学びとと考えています。

**Q** 適応指導教室の環境改善と通級する人数について。

**A** 現在11名の通級者がおり、定

員の12名を超えていないことから増設の予定はありませんが、暖房設備等の寄附を受け冬期間の環境改善が図られております。

**Q** 学校図書購入について。

**A** 各学校から集約し、予算の範囲内で購入しており、電子図書館に係る子どもたちの利用についても促進を図るとともに蔵書の増加に努めます。

**Q** 障がい者の理解促進について。

**A** 現在西中学校と余市養護学校において年に1回障がい者と地域社会との交流を通じた共生社会の支援を目的とした事業を行っており、今後におきましても関係機関と連携し、互いに支え合い暮らししていける共生社会の形成につながる支援を行います。

**Q** ヤングケアラーの実態調査について。

**A** 該当する児童生徒の有無について町内小中学校への聞き取り調査を行ったところであり、引き続き学校におけるヤングケアラーの課題解消に向け、スクールソーシャルワーカーや町の担当部署との連携を図ります。

## 図書館で会議録や委員会記録が閲覧できます

議会だよりは一般質問や審議結果などを分かりやすくお伝えするため、内容を要約して掲載しています。

より詳しい内容をお知りになりたい方は、図書館に備え付けの会議録をご利用ください。



# 議会を傍聴してみませんか 《次の定例会は6月下旬に開催の予定です。》

◆本会議は、役場3階の議会事務局で、傍聴人受付簿に住所・氏名を記入するだけで傍聴できます。

傍聴定員は38人となっており、会議当日の先着順となっています。

◆常任委員会や特別委員会については、委員長の許可を得なければ傍聴できないことになっていますが、プライバシーにかかわる審議など特別の事情がない限り傍聴を認めています。



※詳しい日程などは、議会ホームページをご覧ください。議会事務局 (TEL21-2132) へお問い合わせください。

## 議会日誌

### 2月

- 18日 北後志消防・衛生施設組合議会
- 19日 民生教育常任委員会
- 26日 後志教育研修センター組合議会

### 4月

- 11日 北後志町村議会議長会定期総会
- 17日 民生教育常任委員会
- 18日 議会運営委員会
- 21日 第3回臨時会
- 25日 総務産建常任委員会

### 3月

- 5日 議会運営委員会
- 6～24日 第1回定例会
- 11日 民生教育常任委員会
- 12～19日 各会計予算特別委員会
- 19日 議会運営委員会
- 26日 北後志消防・衛生施設組合議会

### 5月

- 7日 後志総合開発期成会定期総会
- 14日 北海道斜里町議会行政視察来訪
- 19日 民生教育常任委員会
- 21日 総務産建常任委員会

## 編集後記

議会だよりに掲載のとおり、議会では様々な案件を審議しておりますが、道の駅の再編整備は町民の皆様の最大の関心事ではないでしょうか。現在白紙となっているこの事業は、今後改めて町の将来像や地域の声を大切にしながらいかに誰かが誇りに思えるものを目指して検討を重ねていかなければいけないと考えており、議会としてもしっかりと議論を深め取り組んでまいります。また、令和6年度には「どこでも余市町議会」を2回開催しておりますが、地域の声を直接伺うことは、私たち議員にとっても大変貴重な機会となっております。これからも町民の皆様一人一人の声に耳を傾け、開かれた議会を目指してまいります。

現在、「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに大阪万博が開催されており、世界中から多様な文化や知恵が集まるこの万博は、未来への希望を感じさせてくれます。私たちの暮らしは平和の上に成り立っていることを改めて胸に刻み、小さな一歩かもしれませんが、地域からも平和への思いをつなぎ、大きな輪へと広げていきたいものです。

総務産建常任委員会  
委員長 山本 正行